

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 06069913 A

(43) Date of publication of application: 11 . 03 . 94

(51) Int. Cl

H04L 7/00  
H04L 12/56  
H04L 13/08

(21) Application number: 05035998

(22) Date of filing: 25 . 02 . 93

(30) Priority: 18 . 06 . 92 JP 04158366

(71) Applicant: FUJITSU LTD

(72) Inventor: NAKAMURA NORIKAZU  
CHIN SEIGEN

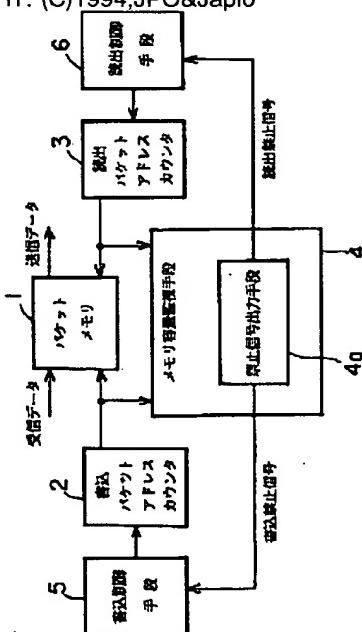
#### (54) CLOCK TRANSFER CIRCUIT

memory 1.

(57) Abstract:

**PURPOSE:** To surely implement data write and read accurately by always counting correctly number of valid packets with respect to the circuit converting reception data of fixed length packet configuration received synchronously with a reception clock into transmission data synchronously with a transmission clock signal having a different phase with that of the reception clock signal.

**CONSTITUTION:** A difference between an address of a write packet counted by a write packet address counter 2 and a read packet address counted by a read packet address counter 3 is obtained every time each packet address changes, and the difference is used for an effective packet number, that is, a packet number of data not read yet among data stored in a packet memory 1. Furthermore, Moreover, when the difference is 0, an inhibit signal output means 4a outputs a signal inhibiting read of transmission data by the packet memory 1 and when the difference is a 2nd prescribed number on the other hand, the means 4a outputs a signal inhibiting write of the reception data to the packet



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-69913

(43) 公開日 平成6年(1994)3月11日

(51) Int.CI. <sup>5</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
H04L 7/00	A 7928-5K			
12/56	G 7928-5K			
L3/08	8020-5K			
	8529-5K	H04L 11/20	102 B	
			審査請求 未請求 請求項の数 12 (全13頁)	

(21) 出願番号 特願平5-35998  
(22) 出願日 平成5年(1993)2月25日  
(31) 優先権主張番号 特願平4-158366  
(32) 優先日 平4(1992)6月18日  
(33) 優先権主張国 日本(JP)

(71) 出願人 000005223  
富士通株式会社  
神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地  
(72) 発明者 中村 則和  
栃木県小山市城東3丁目28番1号 富士通ディジタル・テクノロジ株式会社内  
(72) 発明者 陳 清巖  
栃木県小山市城東3丁目28番1号 富士通ディジタル・テクノロジ株式会社内  
(74) 代理人 弁理士 服部 義巖

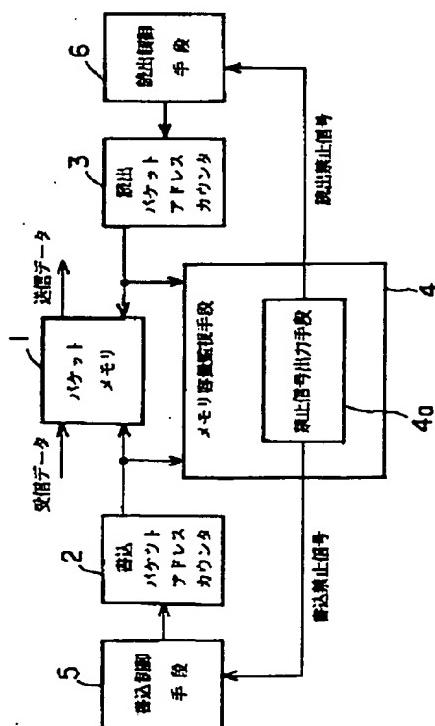
(54) 【発明の名称】クロック乗換回路

(57) 【要約】

【目的】 受信クロックに同期して入力する固定長パケット構成の受信データを、受信クロックと位相の異なる送信クロックに同期する送信データに変換するクロック乗換回路に関し、有効パケット数を常に正しく計数して、データの書き込みおよび読み出しを正確に行うこと可能にすることを目的とする。

【構成】 メモリ容量監視手段4は、書込パケットアドレスカウンタ2でカウントされた書込パケットアドレスの数値と、読出パケットアドレスカウンタ3でカウントされた読出パケットアドレスの数値との差を、各パケットアドレスが変化する度に求め、この差を有効パケット数、即ちパケットメモリ1が保持するデータのうちの未だ読み出されていないデータのパケット数、とする。また、禁止信号出力手段4aは、前記差が0であれば、パケットメモリ1による送信データの読み出しを禁止する読出禁止信号を出力し、一方、前記差が第2の所定数であれば、パケットメモリ1による受信データの書き込みを禁止する書込禁止信号を出力する。

本発明の原理説明図



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信クロックに同期して入力する固定長パケット構成の受信データを、前記受信クロックと位相の異なる送信クロックに同期する送信データに変換するクロック乗換回路において、

第1の所定数のパケット分の記憶容量を持ち、書込クロックに同期して受信データを書き込み、かつ、前記書き込まれた受信データを読み出しつつ、送信データとして出力するパケットメモリ(1)と、  
1パケット分のデータを前記パケットメモリ(1)に書き込む毎に1ずつカウントアップして前記第1の所定数に達すると0に循環し、前記パケットメモリ(1)への書込アドレスをパケット単位で指定する書込パケットアドレスカウンタ(2)と、

1パケット分のデータを前記パケットメモリ(1)から読み出す毎に1ずつカウントアップして前記第1の所定数に達すると0に循環し、前記パケットメモリ(1)からの読み出アドレスをパケット単位で指定する読み出パケットアドレスカウンタ(3)と、

前記書込パケットアドレスカウンタ(2)でカウントされた書込パケットアドレスの数値と、前記読み出パケットアドレスカウンタ(3)でカウントされた読み出パケットアドレスの数値との差を求めて、前記差を、前記パケットメモリ(1)が保持するデータのうちの未だ読み出されていないデータのパケット数であるとするメモリ容量監視手段(4)と、

を有することを特徴とするクロック乗換回路。

【請求項 2】 前記メモリ容量監視手段(4)は、前記差が0であれば、前記パケットメモリ(1)による送信データの読み出しを禁止する読み出禁止信号を出力し、一方、前記差が第2の所定数であれば、前記パケットメモリ(1)による受信データの書き込みを禁止する書込禁止信号を出力する禁止信号出力手段(4a)を有することを特徴とする請求項1記載のクロック乗換回路。

【請求項 3】 前記第2の所定数は、前記第1の所定数より1だけ小さい数であることを特徴とする請求項2記載のクロック乗換回路。

【請求項 4】 前記パケットメモリ(1)による受信データの書き込みを制御する書込制御手段(5)と、前記パケットメモリ(1)による送信データの読み出しを制御する読み出制御手段(6)とを更に有し、前記読み出禁止信号および書込禁止信号は、前記読み出制御手段(6)および書込制御手段(5)にそれぞれ出力されるよう構成したことを特徴とする請求項2記載のクロック乗換回路。

【請求項 5】 前記メモリ容量監視手段(4)は、前記書込パケットアドレスカウンタ(2)でカウントされた書込パケットアドレスの数値を読み出クロックでリタイミングして出力する第1のリタイミング手段と、前記第1のリタイミング手段からの出力と前記読み出パケットアド

レスカウンタ(3)でカウントされた読み出パケットアドレスの数値との差を求める第2の減算手段と、前記書込禁止信号を書込クロックでリタイミングして出力する第2のリタイミング手段とを、更に有することを特徴とする請求項2記載のクロック乗換回路。

【請求項 6】 前記第1のリタイミング手段は、前記書込パケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の読み出クロック発生時に前記書込パケットアドレスの数値を出力することを特徴とする請求項5記載のクロック乗換回路。

【請求項 7】 前記第1のリタイミング手段は、前記書込パケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の読み出クロック発生時に第1のタイミング信号を発生する第1タイミング信号発生手段と、前記第1タイミング信号発生手段からの第1のタイミング信号で前記書込パケットアドレスの数値を選択し出力する第1の選択手段と、前記第1の選択手段からの出力を読み出クロックでラッチする第1のラッチ手段とを有することを特徴とする請求項6記載のクロック乗換回路。

【請求項 8】 前記第1のリタイミング手段は、前記書込パケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の読み出クロック発生時に第1のタイミング信号を発生する第1タイミング信号発生手段と、前記第1タイミング信号発生手段からの第1のタイミング信号で前記書込パケットアドレスの数値をラッチする第2のラッチ手段とを有することを特徴とする請求項6記載のクロック乗換回路。

【請求項 9】 前記メモリ容量監視手段(4)は、前記読み出パケットアドレスカウンタ(3)でカウントされた読み出パケットアドレスの数値を書込クロックでリタイミングして出力する第3のリタイミング手段と、前記第3のリタイミング手段からの出力と前記書込パケットアドレスカウンタ(2)でカウントされた書込パケットアドレスの数値との差を求める第2の減算手段と、前記読み出禁止信号を読み出クロックでリタイミングして出力する第4のリタイミング手段とを、更に有することを特徴とする請求項2記載のクロック乗換回路。

【請求項 10】 前記第3のリタイミング手段は、前記読み出パケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の書込クロック発生時に前記読み出パケットアドレスの数値を出力することを特徴とする請求項9記載のクロック乗換回路。

【請求項 11】 前記第3のリタイミング手段は、前記読み出パケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の書込クロック発生時に第2のタイミング信号を発生する第2タイミング信号発生手段と、前記第2タイミング信号発生手段からの第2のタイミング信号で前記読み出パケットアドレスの数値を選択し出力する第2の選択手段と、前記第2の選択手段からの出力を書込クロックでラッチする第3のラッチ手段とを有することを特徴

とする請求項10記載のクロック乗換回路。

【請求項12】前記第3のタイミング手段は、前記読み出バケットアドレスの数値の最下位ビットの変化後の所定数の読み出クロック発生時に第2のタイミング信号を発生する第2タイミング信号発生手段と、前記第2タイミング信号発生手段からの第2のタイミング信号で前記読み出バケットアドレスの数値をラッチする第4のラッチ手段とを有することを特徴とする請求項10記載のクロック乗換回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はデジタル通信装置等に使用されるクロック乗換回路に関し、特に受信クロックに同期して入力する固定長パケット構成の受信データを、前記受信クロックと位相の異なる送信クロックに同期する送信データに変換するクロック乗換回路に関する。

【0002】デジタル通信装置等では、受信クロックと送信クロックとが同期しない場合に、クロック乗換が行われる。すなわち、受信クロックに同期して入力する固定長パケット構成をとる受信データを、受信クロックと周波数が同じで位相が同じとは限らない送信クロックに同期させて送出することが行われる。

【0003】このためには、書き込みと読み出しとが独立して行えるFIFO(first-in first-out)方式のデュアルポートメモリが用いられる。

【0004】

【従来の技術】従来のクロック乗換回路を図9を参照して説明する。図9は従来のクロック乗換回路の構成を示すブロック図である。クロック乗換回路は、パケットメモリ110、書き込みアドレスカウンタ120、書き込み制御部130、読み出アドレスカウンタ140、読み出制御部150、およびパケット数監視部160から成る。

【0005】パケットメモリ110は、同時に書き込みと読み出しとが可能なデュアルポートRAMで構成され、aビット並列でデータの入出力が行われ、mワードから成るデータパケットをnパケット分記憶できる容量を有する。パケットメモリ110では、データが1ワードずつ、受信クロックに同期した書き込みクロックWCLKのタイミングで書き込まれ、送信クロックに同期した読み出クロックRCLKのタイミングで読み出される。

【0006】パケット先頭パルスWCTP、RCTPは、それぞれ書き込みデータおよび読み出データの各パケットの先頭位置を示すタイミングパルスであり、パケットイネーブル信号WCEN、RCENは、それぞれパケットメモリ110へデータ書き込みおよびパケットメモリ110からデータ読み出し用イネーブル信号である。これらの信号は後述する書き込み制御部130、読み出制御部150から出力されるものである。

【0007】書き込みアドレスカウンタ120は、書き込み

ドアアドレスカウンタ121と、書き込みバケットアドレスカウンタ122とからなり、両方の出力がバケットメモリ110の書き込みアドレスデータとなる。書き込みワードアドレスカウンタ121には、書き込みクロックWCLKとパケット先頭パルスWCTPとパケットイネーブル信号WCENとが入力するようになっており、書き込みワードアドレスカウンタ121はパケットイネーブル信号WCENの入力で動作状態となり、パケット先頭パルスWCTPの入力タイミングで、書き込みクロックWCLKが入力する度に

10 1ずつインクリメントし、その計数値を書き込みアドレスデータの例えば8ビットの書き込みアドレスに対し、上位3ビットの書き込みワードアドレスカウンタとして出力する。つまり、各パケット内でのワードの書き込みアドレスを生成する。

【0008】書き込みバケットアドレスカウンタ122はパケット単位の書き込みアドレスを発生するものである。すなわち、書き込みバケットアドレスカウンタ122には、パケット先頭パルスWCTPとパケットイネーブル信号WCENとが入力するようになっており、パケットイネーブル信号WCENがディセーブル(“L”レベル)となっているときに、入力するパケット先頭パルスWCTPの入力でリセットされ、WCLKが入力する度に1ずつインクリメントし、その計数値を書き込みアドレスデータの例えば8ビットの書き込みアドレスに対し、下位ビットの書き込みバケットアドレスカウンタとして出力する。

【0009】読み出アドレスカウンタ140は、読み出ワードアドレスカウンタ141と、読み出バケットアドレスカウンタ142とからなり、両方の出力がバケットメモリ110の読み出アドレスデータとなる。読み出ワードアドレスカウンタ141には、読み出クロックRCLKとパケット先頭パルスRCTPとパケットイネーブル信号RCENとが入力するようになっており、読み出ワードアドレスカウンタ141はパケットイネーブル信号RCENの入力で動作状態となり、パケット先頭パルスRCTPの入力タイミングで、読み出クロックRCLKが入力する度に1ずつインクリメントし、その計数値を読み出アドレスデータの例えば8ビットの書き込みアドレスに対し、上位3ビットの読み出ワードアドレスカウンタとして出力する。つまり、各パケット内でのワードの読み出アドレスを生成する。

30 【0010】読み出バケットアドレスカウンタ142はパケット単位の読み出アドレスを発生するものである。すなわち、読み出バケットアドレスカウンタ142には、パケット先頭パルスRCTPとパケットイネーブル信号RCENとが入力するようになっており、パケットイネーブル信号RCENがディセーブル(“L”レベル)となっているときに、入力するパケット先頭パルスRCTPの入力でリセットされ、WCLKが入力する度に1ずつインクリメントし、その計数値を読み出アドレスデータの例えば8ビットの書き込みアドレスに対し、下位5ビットの書

40

込パケットアドレスカウンタとして出力する。

【0011】パケット数監視部160は、書込済みのパケット数と読出済みのパケット数との差から有効パケット数を求めて、書き込みや読み出しの制御信号を生成するものであり、アップダウンカウンタ161と信号発生器162とからなる。なお、有効パケット数とは、パケットメモリ110に保持されているパケットデータのうちの未だ読み出されていないパケットデータのパケット数を指す。

【0012】アップダウンカウンタ161には、書込制御部130と読出制御部150とからデータ書込側およびデータ読出側のパケットイネーブル信号WCE\_N, RCE\_Nおよびパケット先頭パルスWCTP, RCTPが入力する。そして、データ書込側のパケットイネーブル信号WCE\_Nが“H”レベルのときに入力するパケット先頭パルスWCTPでカウントアップし、データ読出側のパケットイネーブル信号RCE\_Nが高レベルのときに入力するパケット先頭パルスRCTPでカウントダウンし、計数値を信号発生器162へ出力する。この計数値は有効パケット数に相当する。

【0013】信号発生器162では、この計数値が0まで減少したとき、読み出すべき新規パケットデータが無いことを示すエンプティ信号EPTを読出制御部150へ出力し、また、計数値がパケットメモリ110の格納可能なパケット数nに達したときには、フル信号FLLを書込制御部130へ出力する。各書込制御部130、読出制御部150ではこれらのフル信号FLL、エンプティ信号EPTに従って、それぞれデータ書き込みやデータ読み出しを禁止して、データ上書きによるデータ消失や同一データの2度読みを防止するようにしている。

【0014】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記従来のクロック乗換回路において、パケット数監視部160のアップダウンカウンタ161にパケット先頭パルスWCTP, RCTPが正常に入力している間は、アップダウンカウンタ161が有効パケット数を正確に出力するが、アップダウンカウンタ161にノイズ等が混入した場合には、実際にはパケットデータの書き込みや読み出しが行われていないのにも拘らず、アップダウンカウンタ161の計数値が変化してしまい、有効パケット数を正確に出力しなくなってしまう。このように何らかの原因で、アップダウンカウンタ161の計数値に一度間違が生じると、パケットメモリ110に未だ書き込めるのに、フル信号FLLが出力されて書き込みが禁止されたり、また、パケットメモリ110にもう書き込めないに、フル信号FLLが出力されず、引き続いで書き込みが行われて、まだ読み出されていないデータが上書きされてデータが消失してしまうという問題が生じる。さらに、パケットメモリ110に未だ読み出せるデータがあるのに、エンプティ信号EPTが出力されて読み出しが

禁止されたり、また、パケットメモリ110にもう読み出せるデータが無いのに、エンプティ信号EPTが出力されず、引き続いで読み出しが行われて、古いデータを間違って読み出してしまうという問題が生じる。こうした誤動作はパケットメモリ110の計数値をリセットしない限り続くことになる。

【0015】本発明はこのような点に鑑みてなされたものであり、パケットメモリに保持されているパケットデータのうちの未だ読み出されていないパケットデータの10パケット数である有効パケット数を常に正しく計数して、データの書き込みおよび読み出しを正確に行うことを利用したクロック乗換回路を提供することを目的とする。

【0016】

【課題を解決するための手段】本発明では上記目的を達成するために、図1に示すように、第1の所定数のパケット分の記憶容量を持ち、書込クロックに同期して受信データを書き込み、かつ、前記書き込まれた受信データを読出クロックに同期して読み出して送信データとして

- 20 出力するパケットメモリ1と、1パケット分のデータをパケットメモリ1に書き込む毎に1ずつカウントアップして第1の所定数に達すると0に循環し、パケットメモリ1への書込アドレスをパケット単位で指定する書込パケットアドレスカウンタ2と、1パケット分のデータをパケットメモリ1から読み出す毎に1ずつカウントアップして第1の所定数に達すると0に循環し、パケットメモリ1からの読出アドレスをパケット単位で指定する読出パケットアドレスカウンタ3と、書込パケットアドレスカウンタ2でカウントされた書込パケットアドレスの30 数値と、読出パケットアドレスカウンタ3でカウントされた読出パケットアドレスの数値との差を求め、この差を、パケットメモリ1が保持するデータのうちの未だ読み出されていないデータのパケット数であるとするメモリ容量監視手段4と、を有することを特徴とするクロック乗換回路が、提供される。

- 40 【0017】また、メモリ容量監視手段4は、前記差が0であれば、パケットメモリ1による送信データの読み出しを禁止する読出禁止信号を出力し、一方、前記差が第2の所定数であれば、パケットメモリ1による受信データの書き込みを禁止する書込禁止信号を出力する禁止信号出力手段4aを有する。

- 【0018】さらに、パケットメモリ1による受信データの書き込みを制御する書込制御手段5と、パケットメモリ1による送信データの読み出しを制御する読出制御手段6とを備え、読出禁止信号および書込禁止信号は、読出制御手段6および書込制御手段5にそれぞれ出力される。

【0019】

- 【作用】以上の構成により、図1において、メモリ容量監視手段4は、書込パケットアドレスカウンタ2でカウ

ントされた書込パケットアドレスの数値と、読み出パケットアドレスカウンタ3でカウントされた読み出パケットアドレスの数値との差を、各パケットアドレスが変化する度に求め、この差を有効パケット数、即ちパケットメモリ1が保持するデータのうちの未だ読み出されていないデータのパケット数、とする。

【0020】これにより、警報ノイズ等がメモリ容量監視手段4に混入しても、次の書込または読み出パケットアドレスの変化時には有効パケット数は修正され、間違った有効パケット数がリセットまで出力され続けることはない。

【0021】また、禁止信号出力手段4aは、前記差が0であれば、パケットメモリ1による送信データの読み出しを禁止する読み出禁止信号を出力し、一方、前記差が第2の所定数であれば、パケットメモリ1による受信データの書き込みを禁止する書き込禁止信号を出力する。

【0022】これらの読み出禁止信号および書込禁止信号は、読み出制御手段6および書込制御手段5にそれぞれ出力され、読み出制御手段6は、読み出禁止信号の入力に基づき、パケットメモリ1による受信データの書き込みを禁止し、また書込制御手段5は、パケットメモリ1による送信データの読み出しを禁止する。これにより、データ上書きによるデータ消失や同一データの2度読みを防止する。

### 【0023】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。図2は本発明の実施例のクロック乗換回路の全体構成を示すブロック図である。図中、パケットメモリ10、書込アドレスカウンタ20、書込制御部30、読み出アドレスカウンタ40、および読み出制御部50は、図9で既に説明したパケットメモリ110、書込アドレスカウンタ120、書込制御部130、読み出アドレスカウンタ140、および読み出制御部150とそれぞれ同一の構成になっている。また、書込アドレスカウンタ20内の書込ワードアドレスカウンタ21および書込パケットアドレスカウンタ22、並びに読み出アドレスカウンタ40内の読み出ワードアドレスカウンタ41および読み出パケットアドレスカウンタ42も、図9の書込ワードアドレスカウンタ121および書込パケットアドレスカウンタ122、並びに読み出ワードアドレスカウンタ141および読み出パケットアドレスカウンタ142とそれぞれ同一の構成になっている。したがって、これらについての説明は省略する。なお、以下の実施例では、パケットメモリ10が、27ワードから成るデータパケットを8パケット分記憶できる容量を有するものとして説明する。

【0024】本実施例のメモリ容量監視部60には、書込パケットアドレスカウンタ22および読み出パケットアドレスカウンタ42から、3ビット構成の書込パケットアドレスWPAおよび読み出パケットアドレスRPAが入力され、いずれか一方のパケットアドレスが変化する都

度、書込パケットアドレスWPAの値と読み出パケットアドレスRPAの値との差が計算され、この差が有効パケット数としてフル信号FLSやエンブティ信号EPTの出力に使用される。

【0025】すなわち、書込パケットアドレスカウンタ22は、1パケット分の受信データをパケットメモリ10に書き込む毎に1ずつカウントアップして、例えば値8に達すると値0に循環するもので、パケットメモリ10への書込アドレスをパケット単位で指定するものである。また、読み出パケットアドレスカウンタ42は、1パケット分の送信データをパケットメモリ10から読み出す毎に1ずつカウントアップして、例えば値8に達すると値0に循環するもので、パケットメモリ10からの読み出アドレスをパケット単位で指定するものである。したがって、書込パケットアドレスWPAの値と読み出パケットアドレスRPAの値との差が有効パケット数に相当する、ということに着目してメモリ容量監視部60は構成されている。

【0026】図3は、書込パケットアドレスWPAの値や読み出パケットアドレスRPAの値と、フル信号FLSやエンブティ信号EPTとの関係を示す図であり、

(A)は通常動作時、(B)はエンブティ信号EPT検出時、(C)はフル信号FLS検出時の関係タイムチャートである。書込パケットアドレスWPAおよび読み出パケットアドレスRPAが変化したときに、それらの値の差(容量)が算出され、この容量が0ならばエンブティ信号EPTが出力され、容量が7ならばフル信号FLSが出力される。なお、容量が、8ではなく、7でフル信号FLSを出力するようにして、パケットメモリ10への上書きを安定して防止できるようしている。

【0027】なお、パケットメモリ10に対する書き込みおよび読み出しが、非同期で行われるので、両側のパケットアドレスカウンタの出力値の差を求めるには、いずれか一方のクロックに両者を合わせた上で減算を行う必要がある。

【0028】このメモリ容量監視部60の具体的な構成について、以下、4つの回路例を基に説明する。図4は、メモリ容量監視部60の第1回路例を示す回路ブロック図である。第1回路例は、書込クロックWCLKに読み出パケットアドレスRPAを同期させる方法をとっている。以下、第1回路例の回路各部の信号を示す図5を適宜引用しながら説明する。

【0029】まず、読み出パケットアドレスRPAの最下位ビットの値RPA0(図5(D))をイネーブル信号生成回路61へ取り込む。最下位ビット値RPA0は、読み出パケットアドレスRPAが変化する度に0, 1交番をする信号である。

【0030】イネーブル信号生成回路61は、bビットシフトレジスタ61aと、フリップフロップ61bと、EX-OR61cとからなり、このbビットシフトレジ

スタ 6 1 a が、最下位ビット値 R P A o を、書込クロック W C L K [ 図 5 ( A ) ] で b パルス分だけシフトしながら取り込み、フリップフロップ 6 1 b と E x - O R 6 1 c とがイネーブル信号 [ 図 5 ( E ) ] を生成する。図 5 ( E ) におけるイネーブル信号の立ち上がりタイミングは、書込クロック W C L K に同期するとともに、 b ビットシフトレジスタ 6 1 a で設定された書込クロック W C L K の b パルス分だけ、最下位ビット値 R P A o の立ち上がり時より遅れている。 b ビットシフトレジスタ 6 1 a の b ビットは最大 27 ビットまでの範囲で任意に設定可能であり、この b ビットの設定によって、読み込みのタイミングを調整できる。

【 0031 】 ラッチ回路 6 2 は、セレクタ 6 2 a と、フリップフロップ 6 2 b とから成り、セレクタ 6 2 a の一方の入力には 3 ビットの読み出バケットアドレス R P A [ 図 5 ( C ) ] が入力し、他方の入力にはフリップフロップ 6 2 b の出力が還流する。図 5 ( C ) に示す各ブロックは、 27 ワードからなる 1 バケット分を示しており、ブロック内の数字は 10 進表示の読み出バケットアドレス R P A の値である。

【 0032 】 セレクタ 6 2 a は、イネーブル信号生成回路 6 1 から “H” レベルのイネーブル信号が入力されない間は、フリップフロップ 6 2 b からの還流出力を選択的に取り込み、一方、イネーブル信号が入力されると読み出バケットアドレス R P A を選択的に取り込み、それぞれフリップフロップ 6 2 b へ出力する。フリップフロップ 6 2 b は、その出力を書込クロック W C L K のタイミングでラッチして出力する。したがって、ラッチ回路 6 2 の出力は図 5 ( F ) のようになる。

【 0033 】 減算器 6 3 には、ラッチ回路 6 2 の出力と、書込バケットアドレス R P A [ 図 5 ( B ) ] とが入力し、両者の差 [ 図 5 ( G ) ] が算出される。この算出された差が E P T 検出部 6 4 および F L L 検出部 6 5 へ出力され、 E P T 検出部 6 4 では、上記差が 0 のとき出力信号を出し、これがフリップフロップ 6 6 で書込クロック W C L K のタイミングでラッチされ、一方、 F L L 検出部 6 5 では、上記差が 7 のとき出力信号を出し、これがフリップフロップ 6 8 で書込クロック W C L K のタイミングでラッチされる。

【 0034 】 フリップフロップ 6 8 の出力はそのままフル信号 F L L として出力され、書込制御部 3 0 へ送られる。しかし、フリップフロップ 6 6 の出力 [ 図 5 ( H ) ] は、書込クロック W C L K に同期されているため、読み出クロック R C L K に乗り換えるためのクロック乗換回路 6 7 を経てエンプティ信号 E P T [ 図 5 ( I ) ] として読み出制御部 5 0 へ出力される。クロック乗換回路 6 7 は読み出クロック R C L K のタイミングでラッチする 2 つのフリップフロップ 6 7 a, 6 7 b からなり、フリップフロップを 2 つ備えることで確実なクロック乗換を行なっている。なお、図 5 はエンプティ信号 E

P T が発生される場合を例にして図示を行なっている。

【 0035 】 つぎに、メモリ容量監視部 6 0 の第 2 回路例を説明する。図 6 は、メモリ容量監視部 6 0 の第 2 回路例を示す回路ブロック図である。第 2 回路例は、読み出クロック R C L K に書込バケットアドレス R P A を同期させる方法をとっている。第 2 回路例、図 4 の第 1 回路例と大半は同じであるので、同一構成には同一番号を付し、以下では異なる部分のみを説明する。

【 0036 】 イネーブル信号生成回路 6 1 には、書込バケットアドレス R P A の最下位ビット値 R P A o が入力し、タイミングクロックとして読み出クロック R C L K が入力する。また、ラッチ回路 6 2 には書込バケットアドレス R P A が入力する。

【 0037 】 減算器 6 3 には、書込バケットアドレス R P A と、ラッチ回路 6 2 の出力とが入力する。また、エンプティ信号 E P T はクロック乗換回路を経ずに出力され、一方、フル信号 F L L は書込クロック W C L K に乗り換えるためのクロック乗換部 6 9 を経て出力される。

【 0038 】 そして、第 2 回路例の動作は、第 1 回路例 20 の動作において、読み出バケットアドレス R P A が書込バケットアドレス R P A に代わり、書込クロック W C L K が読み出クロック R C L K に代わっただけの動作となる。

【 0039 】 つぎに、メモリ容量監視部 6 0 の第 3 回路例を説明する。図 7 は、メモリ容量監視部 6 0 の第 3 回路例を示す回路ブロック図である。第 3 回路例は、書込クロック W C L K に読み出バケットアドレス R P A を同期させる方法をとっている。第 3 回路例も第 1 回路例と類似するため、第 3 回路例において、図 4 の第 1 回路例と同一構成には同一番号を付し、以下では異なる部分のみを説明する。なお、第 3 回路例の回路各部の信号を示す図 8 を適宜引用しながら説明する。

【 0040 】 まず、読み出バケットアドレス R P A の最下位ビットの値 R P A o [ 図 8 ( C ) ] をイネーブル信号生成回路 7 0 へ取り込む。イネーブル信号生成回路 7 0 は、 c ビットシフトレジスタ 7 0 a と、 E x - O R 7 0 b とからなり、 c ビットシフトレジスタ 7 0 a が、最下位ビット値 R P A o を、書込クロック W C L K で c パルス分だけシフトしながら取り込み、 E x - O R 7 0 b とともにイネーブル信号 [ 図 8 ( D ) ] を生成する。図 8

40 ( D ) におけるイネーブル信号の立ち上がりタイミングは、書込クロック W C L K に同期するとともに、イネーブル信号のパルス幅は c ビットシフトレジスタ 7 0 a で設定される c ビットに応じて決まる。

【 0041 】 ラッチ回路 7 1 は、フリップフロップから成り、イネーブル信号生成回路 7 0 から “H” レベルのイネーブル信号が入力されるタイミングで読み出バケットアドレス R P A をラッチして出力する [ 図 8 ( E ) ] 。

【 0042 】 減算器 6 3 以降の構成および動作は図 4 の第 1 回路例と同一である。最後に、メモリ容量監視部 6 0 の第 4 回路例を説明する。第 4 回路例は、第 3 回路例

において、読出クロック R C L K に書込パケットアドレス W P A を同期させる方法をとったものである。すなわち、第 3 回路例に第 2 回路例の変更部分を組み合わせて第 4 回路例が構成されるので、第 4 回路例の詳しい説明は省略する。

【0043】なお、以上の実施例では、パケットメモリ 10 が、27 ワードから成るデータパケットを 8 パケット分記憶できる容量を有するものとして説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、任意のワード数、パケット数に対し適用可能である。

【0044】

【発明の効果】以上説明したように本発明では、書込パケットアドレスカウンタでカウントされた書込パケットアドレスの数値と、読出パケットアドレスカウンタでカウントされた読出パケットアドレスの数値との差を求め、この差を有効パケット数、即ちパケットメモリが保持するデータのうちの未だ読み出されていないデータのパケット数、とする。これにより、替えノイズ等がメモリ容量監視手段に混入しても、次の書込または読出パケットアドレスの変化時には有効パケット数は修正され、間違った有効パケット数がリセットまで出力され続けることはない。つまり、有効パケット数を常に正しく計数して、データの書き込みおよび読み出しを正確に行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の原理説明図である。

【図 2】本発明の実施例のクロック乗換回路の全体構成を示すブロック図である。

【図 3】書込パケットアドレス W P A の値や読出パケットアドレス R P A の値と、フル信号 F L L やエンプティ信号 E P T との関係を示す図である。

【図 4】メモリ容量監視部の第 1 回路例を示す回路ブロック図である。

【図 5】第 1 回路例の回路各部の信号を示すタイムチャートである。

【図 6】メモリ容量監視部の第 2 回路例を示す回路ブロック図である。

【図 7】メモリ容量監視部の第 3 回路例を示す回路ブロック図である。

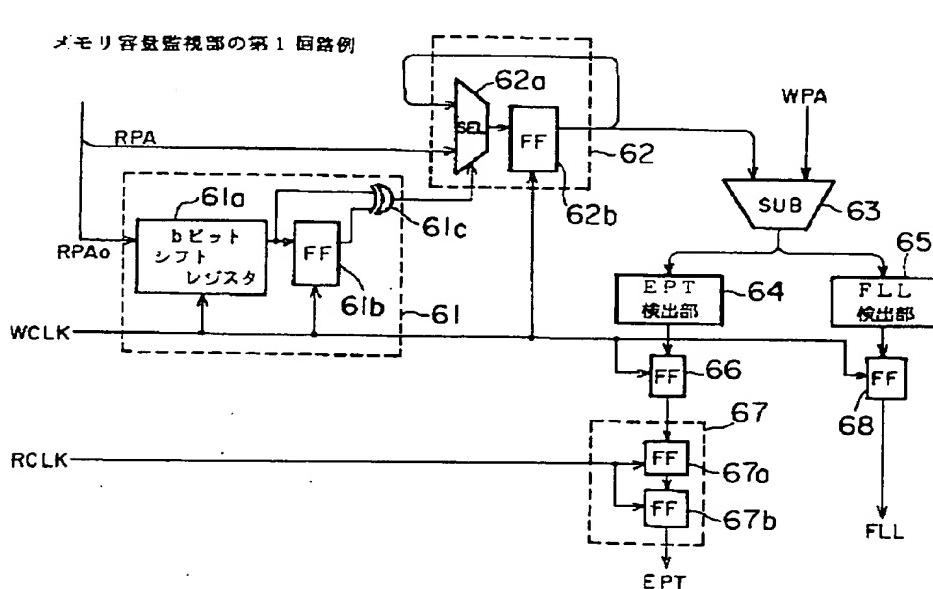
【図 8】第 3 回路例の回路各部の信号を示すタイムチャートである。

【図 9】従来のクロック乗換回路の全体構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

- |     |                |
|-----|----------------|
| 1   | パケットメモリ        |
| 2   | 書込パケットアドレスカウンタ |
| 3   | 読出パケットアドレスカウンタ |
| 4   | メモリ容量監視手段      |
| 4 a | 禁止信号出力手段       |
| 5   | 書込制御手段         |
| 6   | 読出制御手段         |

【図 4】

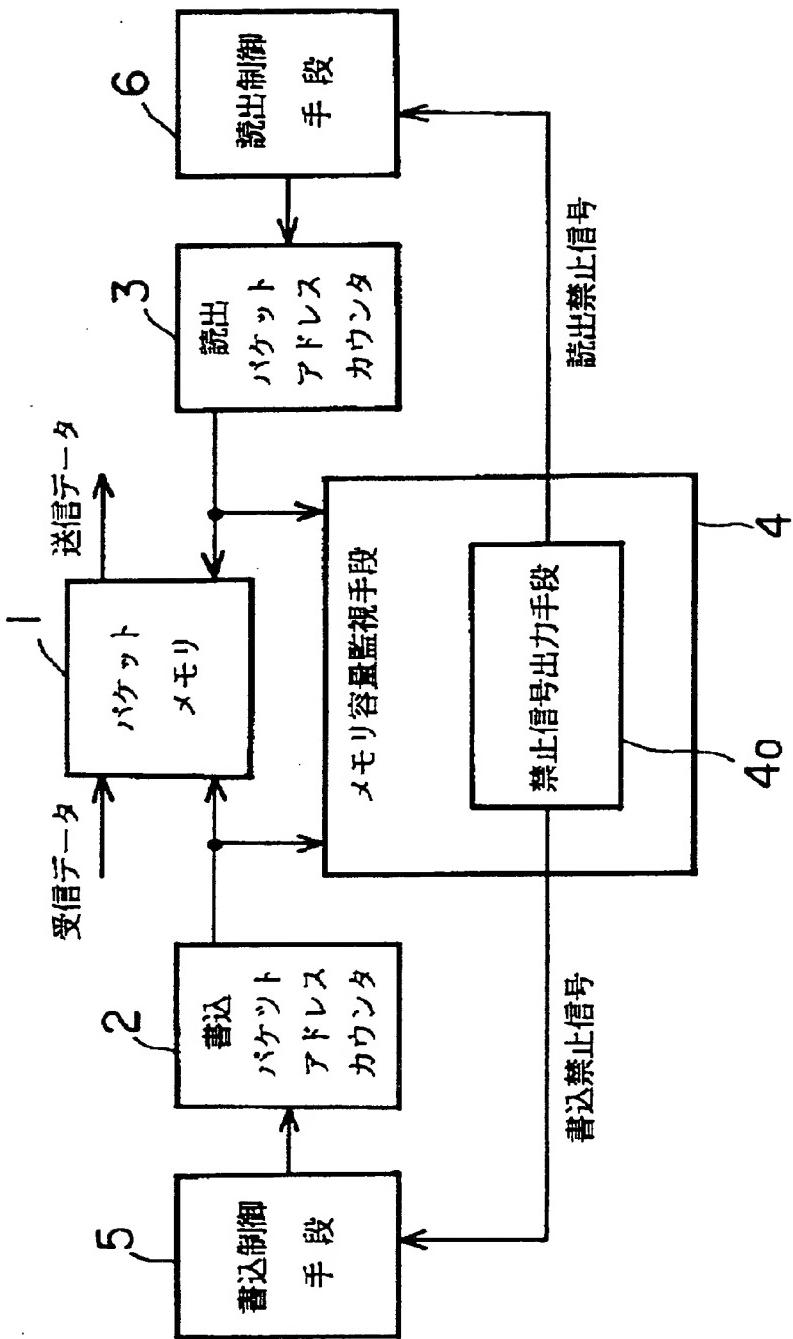


本発明の原理説明図

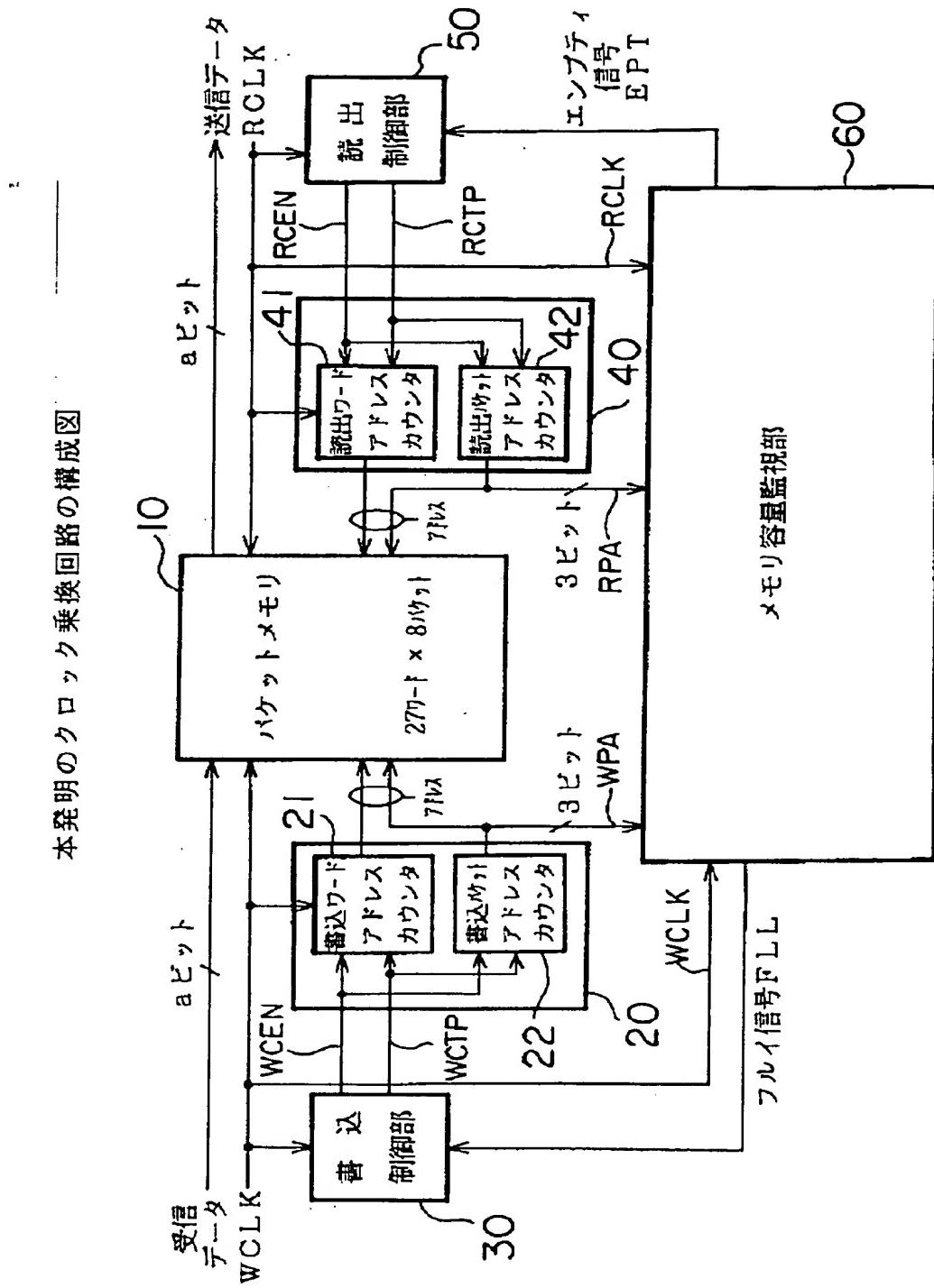
( 8 )

特開平6-69913

【図1】



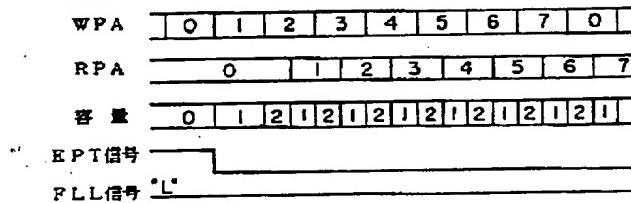
【図 2】



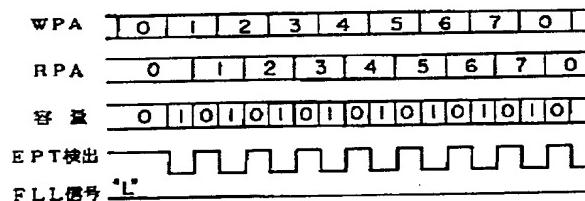
〔圖 3〕

## パケットアドレスとEPT信号、FLSI信号の関係を示す図

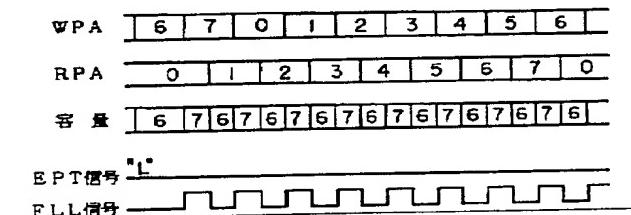
### (A) 通常動作



(B) EPT撓出



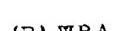
(C) FLL檢出



[图 5]

#### 第1回路例 各部の信号のタイミングチャート

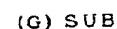
(A) WCLK JNL



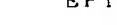
(D) RIA



(F) ラヂチ

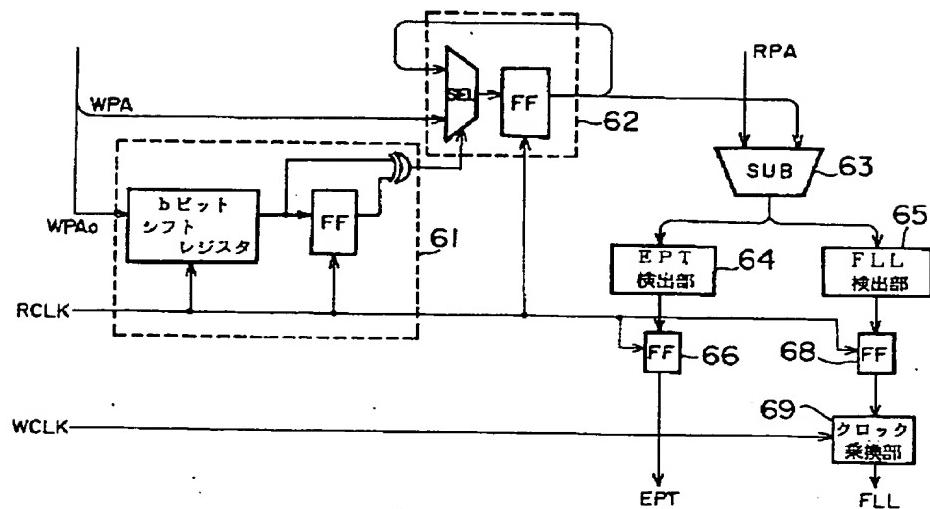


クロス  
モード



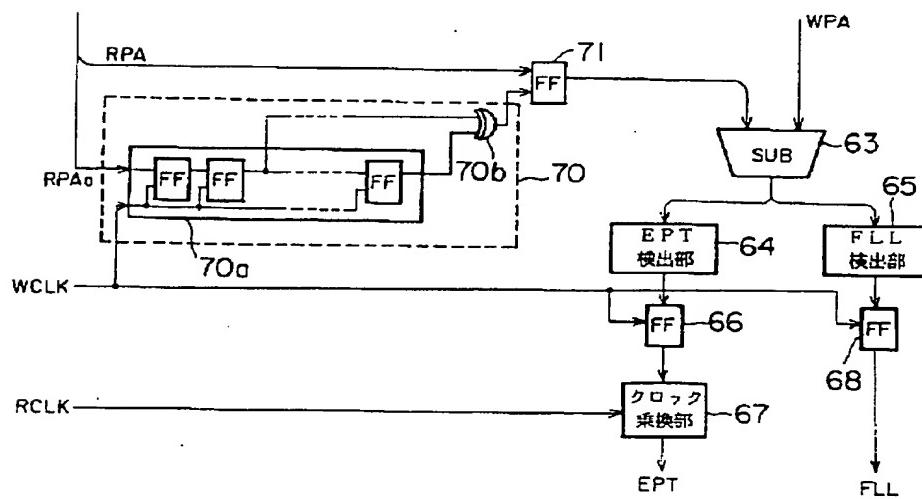
【図 6】

メモリ容量監視部の第2回路例



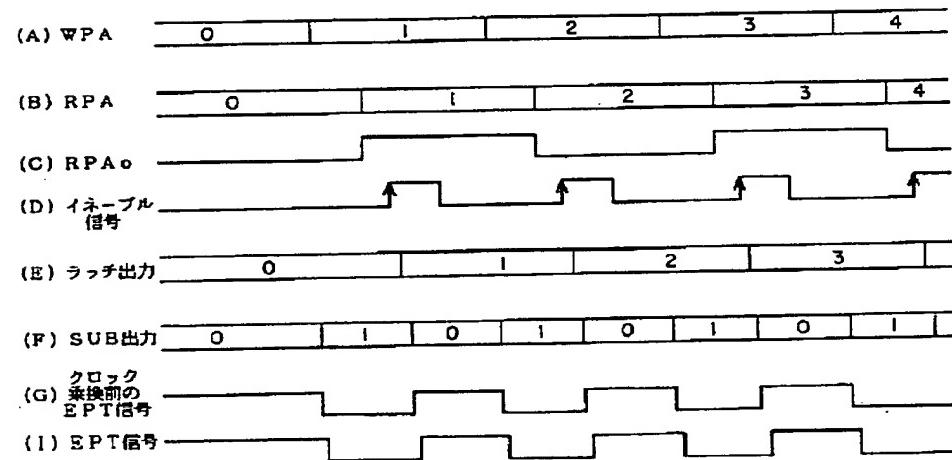
【図 7】

メモリ容量監視部の第3回路例



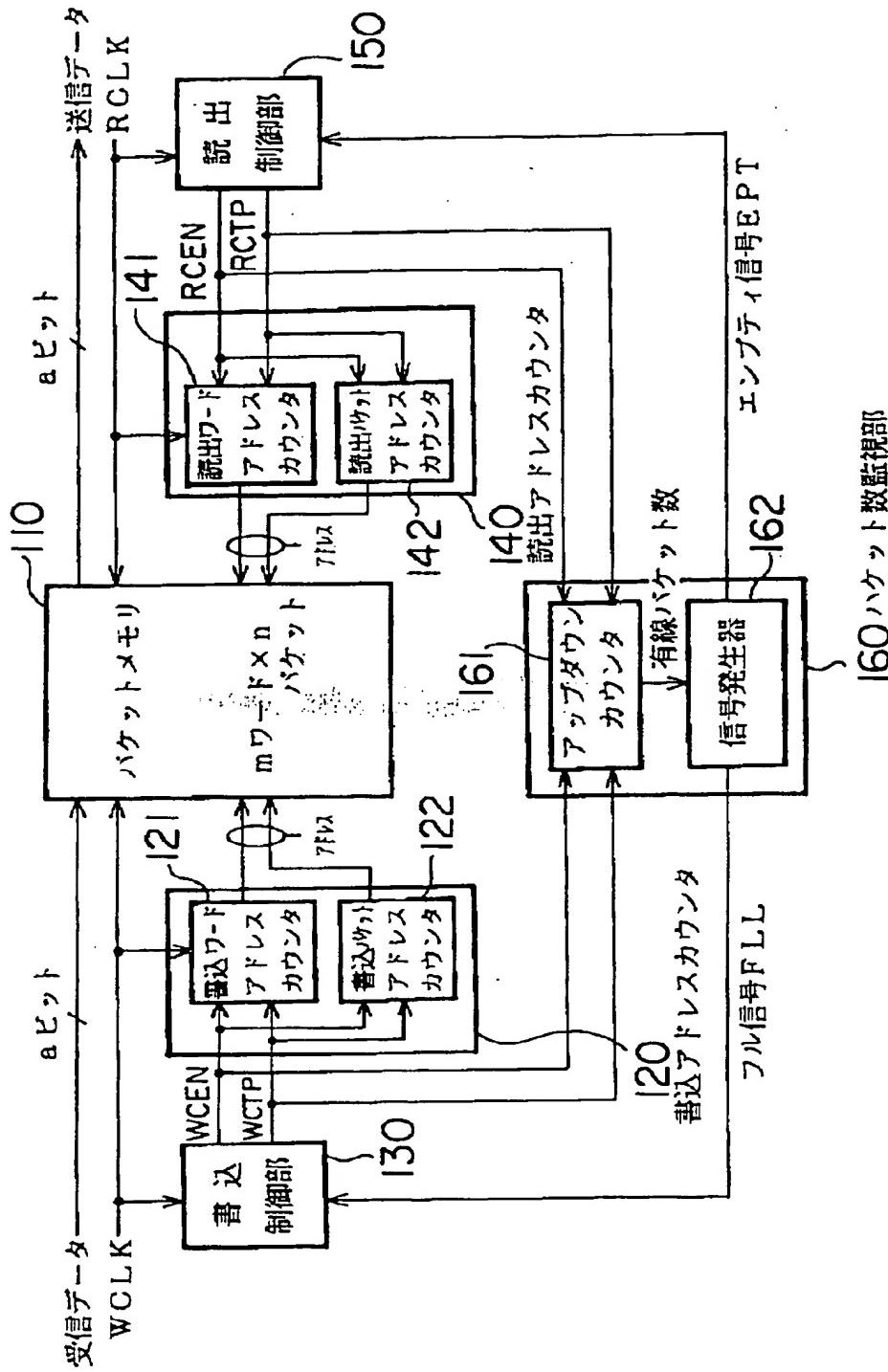
【図 8】

第3列回路各部の信号のタイミングチャート



【図 9】

## 従来のクロック乗換回路の構成図



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

International application No.

PCT/JP00/04639

**A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**  
 Int.Cl' H04L 13/08  
 G06F 13/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

**B. FIELDS SEARCHED**

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl' H04L 13/08, H04L 12/40, H04L 29/00  
 G06F 13/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
 Jitsuyo Shinan Koho(Y1, Y2) 1926-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho(U) 1994-2000  
 Kokai Jitsuyo Shinan Koho(U) 1971-2000 Jitsuyo Shinan Toroku Koho(Y2) 1996-2000

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

**C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT**

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP, 10-222440, A (Fujitsu Limited), 21 August, 1998 (21.08.98), Figs. 5, 6 (Family: none)	1, 2, 9
Y	JP, 06-069913, A (Fujitsu Limited), 11 March, 1994 (11.03.94), abstract (Family: none)	3
A	JP, 11-017773, A (Sony Corporation), 22 January, 1999 (22.01.99), Par. No. [0033] (Transaction Label (t1)) (Family: none)	4-8, 10-22
T	JP, 2000-134229, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00), Figs. 12, 13, 16 & WO, 00/25215, A1	1-22
T	JP, 2000-134230, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00), Figs. 12, 14 & WO, 00/25217, A1	1-22

Further documents are listed in the continuation of Box C.  See patent family annex.

"A"	Special categories of cited documents: document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E"	earlier document but published on or after the international filing date	"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L"	document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O"	document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&"	document member of the same patent family
"P"	document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		

Date of the actual completion of the international search  
13 October, 2000 (13.10.00)

Date of mailing of the international search report  
24 October, 2000 (24.10.00)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/04639

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
T	JP, 2000-134232, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00), abstract & WO, 00/25216, A1	1-22
T	JP, 2000-134231, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00) (Family: none)	1-22
T	JP, 2000-134233, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00), Figs. 13 to 20 (Family: none)	1-22
T	JP, 2000-134242, A (Seiko Epson Corporation), 12 May, 2000 (12.05.00), Figs. 13 to 18, 21, 22 (Family: none)	1-22